

婦人のための情報誌

2号

ななわく



目次

二十一世紀の婦人の生活は……	2
聞いてみました 婦人の将来像……	4
ティータイム……	8
テータファイル……	9
私たちのまち……	10
海外スポーツ……	11
はじめまして……	12
婦人のための事業紹介……	14



静岡県

21世紀の婦人の生活は.....

婦人の将来像調査のあらまし

婦人を取りまく社会環境

高齢化社会

・一人ぐらしの老人女性が増えている



・老親の世話で女性の負担が重くなっている



・地域で助け合いがさかんでいる

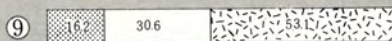


福祉制度

・家事育児を家庭外に頼る人が増えている

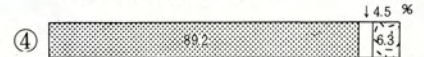


・行政サービスが充実している



社会・経済

・働く女性が増加している



・技術革新は女性の職場を広げている



・女性の働きやすい制度が普及している



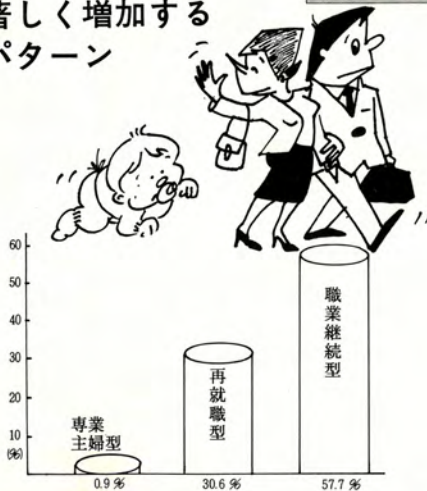
・職場での男女平等がすすむ



そう思う どちらともいえない そうは思わない

婦人のライフパターン

著しく増加する
パターン



望ましいパターン



婦人の生活

職業を持つこと

・専業主婦は減少している

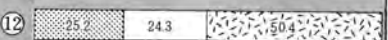


・管理職の女性が多くなっている



家庭生活

・三世帯世帯は増加している



・家事、育児を分担する夫が増えている



・ボランティアがさかんにになっている

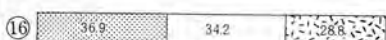


女子教育

・良妻賢母教育が強まっている



・四年制女子大学生の就職機会が増えている



・職業のための教育を望む女性が増えている



そう思う どちらともいえない そうは思わない

いま、なぜ婦人の将来像が問われなければならないのでしょうか。私たちは、時代の大きな曲がり角に立っています。女性の生活も、環境も大きく変わりつつあります。私たちは、この変化を予測し、的確に対応していかなければなりません。この「婦人の将来像調査」は、これからの婦人が取り組むべき課題と目標を具体的に検討し、実現にむかっている実践的プログラムをつくる資料となるものです。これをもとに、新しい女性の生き方についての話し合いが深まり、婦人の連帯が強まることを期待します。

婦人の意識

結婚観・家庭観

・女の幸福=結婚は減少している



・子供が幼い間は子育てに専念するのが望ましいという風潮は弱まっている

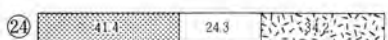


男女差についての意識

・主婦、母親以外の役割が重視されている



・男性の女性に対する見方は今と変わらない

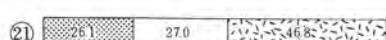


就業に対する意識

・花嫁修業型、腰掛け型が一般的となっている



・女性の就業理由は家計補助となっている



・再就職よりボランティアを選ぶ女性が増えている



そう思う どちらともいえない そうは思わない

「婦人の将来像」に関する調査

・調査目的 西暦二千年(昭和七十五年)における婦人像を明らかにする。
 ・調査時期 五十七年九月〜十二月
 ・調査対象者 県内の三十歳代〜四十歳代の有識者、男女一〇〇人
 詳しい調査報告書(B5版一〇〇頁)をご希望の方は、切手二四〇円分を同封のうえ、婦人対策室まで、お申し込みください。
 なお、部数には限りがありますので、ご承知ください。

聞いてみました婦人の将来像



和田光正さん

株式会社八百半デパート
常務取締役
沼津市

企業と 女性労働

すばらしい女性の能力

今まではあまりにも男性中心の会社すぎました。これからは、男性、女性がそれぞれの能力を社会の発展のために活かしていかなければならないと思います。企業経営の立場から、女性の能力を活用しなければ企業

女性の働く分野は広がる

これからは、職場のOA化やロボットの導入によって仕事の内容も細分化され、質の高い労働が求められます。これまでの単純な繰り返し作

専門知識が必要

出産や育児のために職場を離れたとしても、専門的知識や技能があれば、再び職場に復帰することが可能であり、特にサービス産業の分野では、そういう時代が必ずくると思います。



澤口嘉代子さん

弁護士
静岡市

女性の 社会参加

社会参加、結局はプラス

子育てがずいぶん短期間で終わってしまふようになりましたから、女性の目が家庭の外へ向くようになってきましたね。

外への関心が増し、働く女性が増

えたことが、いろいろな問題を生んでいるのも事実です。家族の問題、例えば離婚とか、老人の扶養の問題などです。しかし、私は女性が社会へ参加していくことの積極的な面を評価したいと思っています。

まず家庭から

女性が変わってきたといっても、全体としては、まだまだ男性支配の社会ですが、男女の平等化はまず家庭から進んでいくと思います。女性が家庭にのみとどまっているのではなくて、社会参加をすること、

女性同志の連帯を

女性の地位向上には女性自身の努力が不可欠です。各分野で活躍している女性が次に続く女性を引っ張り上げ、助け合いのネットワークをはりめぐらすなど、女性たち自身の努力が、社会を変えていく原動力だと思っています。



佐藤和子さん
浜松婦人懇話会代表
浜松市

女性と 福祉制度

高齢化社会は女性の暮らしに大きな負担となつてくると思います。このことに気づくことは非常に大事なことです。女性の生活の補償は主として家族にたよつてきました。特に高齢になると親子関係を中心とした血

女性に負担重い高齢化社会

縁関係のネットワークの中で補償されるシステムが続いてきました。だから地域でお互いに助け合うグループ活動が盛んにならないのです。例えば寝たきり老人が出ると、一人の女性が二十四時間つきっきりで世話をしなければならぬことになります。そこで、地域でという発想が生まれます。しかし、家の恥を外にさらしてまで……という抵抗があり、結局は血縁の中で処理をし、処理が不可能になると公的サービスで何とかしてくれということになります。これでは相互に助け合うグルー

地域で助け合いを

これからは、家庭の機能と思われていたことでも、地域の機能として共同化していくことも考えなくてはならないと思います。高齢化社会を迎え、女性自身がどのように対応したらよいかということになります。積極的に個性や能力を活かすことが必要です。



渡辺千鶴子さん
株式会社明電舎
沼津事業所勤務
沼津市

主婦 と就労

増える働く既婚女性

結婚や出産後も働き続ける女性は今後とも増えると思います。生きがい追求や自己実現の欲求といった個人としての生活目標もあります。が、家計収入を補うという比重も高まっ

増える夫の家事参加

働く婦人の増加によって、「夫は仕事、妻は家庭」といった考え方は徐々にではあるが変化し、家事に参加する夫が増えてくると思います。私も、家族の協力があつたからこそ結婚・出産後も仕事を続けることができてくるのではないのでしょうか。経済の低成長が続くなかで、かつてのよ

地域の助け合いが支え

将来の方向としては、地域を単位として、安い費用で家事・育児などを相互に助け合うグループ活動が盛んになってくれればよいと思います。従来、女性が働きつづける場合は、職業と家庭責任との二重の負担を負つてきましたが、これからは男性、女性、社会とで分担していく必要があると思います。また、再雇用制度や育児休業制度などもっと普及してくれば、女性が働きやすくなると思いますね。

グループ活動は出てきません。